



9月号 (No.6)

2023年8月25日

# 帝京大学小学校だより

帝京大学小学校

## 待っていました！！

帝京大学小学校 校長 石井 卓之

コロナのために参加できなかった「NHK 全国学校音楽コンクール 東京都コンクール(通称 N コン)」の予選に、今年度ようやく出場することができました。私はこれまでも、新宿区、港区の校長時代から会場となっている「府中の森 芸術劇場」で子ども達の歌声を聞き、応援してきました。日々の練習を積み重ね、目標に向かって努力していき、大きく成長した成果を発表できるこのNコンが大好きです。

コロナ禍で、長らく学びの制限を受けてきたのが音楽科です。特に、歌唱は飛沫感染予防の観点から、距離の確保とマスクの着用が必須でした。そのため、豊かな表情や頭声発声などを学ぶ機会が減少していました。この間毎年、齋藤先生と千葉先生からは、「合唱団、今年は N コンに参加しても大丈夫でしょうか。」という確認がありました。5類に移行が決まった今年、満を持しての出場となりました。

7月31日(月)の予選の前、19日の終業式の日には体育館の舞台上で合唱団に発表をしてもらいました。合唱団の歌が始まると、体育館で聴いていた子ども達の姿勢や表情が一瞬で変わり、体育館がコンサート会場になりました。「しっかりと聴きなさい」「おしゃべりをしないで聴きなさい」などの指導は何もしていなくても、会場内の子ども達は立派な聴衆となり、1年生は憧れの眼差しで聴き入り、最後は大きな拍手を送っていました。夏休みに入ると連日の暑さにも負けないで、体育館や音楽ホールでさらに練習を積み重ね、高音域の響きが上達してきたと感じました。

予選当日、保護者の方や教員の応援のもと、大きな舞台上で堂々と課題曲「地図」と自由曲「シーラカンスをとりこいこう」を熱唱することができました。音楽科の先生たちの「全員を舞台に立たせたい」との意向からメンバーの入れ替えをして、緊張しながらも持てる力を出し切ることができたと思えました。卒業した合唱団の先輩たちも駆けつけてくれ、「うちのお母さん、感激して涙を流していました。」「やっぱりこの舞台に立ちたかった。」など、色々なことを話してくれました。

私は午後で会議があったために、午前中の部だけの応援となりました。他校の歌も素晴らしい内容でしたが、特に帝京大学小学校の後に歌った日野市立旭が丘小学校の歌声が印象に残りました。平均25名以上が舞台に立つ学校が多い中、16名での参加でしたが、その声量は他校に勝るとも劣らず、高音域の伸びを聴いたときには、鳥肌が立ちました。

審査の結果、本校は奨励賞となり本選には出場はできませんでしたが、子ども達は色々な学校の歌や立ち振る舞いから学んだことが多かったと思います。今回の学びを基に、来年度はさらなる伸びをみせてくれることと期待しています。ご協力いただいた保護者の皆様に、心より感謝を申し上げます。

